

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・卒業、入学、進学、就職などのセレモニー関連のファッションが活発に動いた。ホワイトデーの個人ギフトも活発で、いずれも“上質”をキーワードに、売上は前年比で4割程度の増加となった。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・暖冬の影響で来客数が多い半面、客の買い回りによる客単価低下が続いていたが、最近ではサラダ関連の春野菜やドレッシングなどが、例年より早く活発に動き始めた。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・低温が1、2週間続いたため野菜の発育が止まり、価格が上昇気味で売りづらいが、客単価の上昇により売上高は確保している。
		乗用車販売店 （総務担当）	販売量の動き	・4月から新社会人となる客で店頭はにぎわいを見せている。最近では小型車を中心に、特に女性向けスタイルの車種の受注が目立っている。
		その他専門店 〔医薬品〕（営 業担当）	販売量の動き	・インフルエンザと花粉症の影響から、1人当たりの買上点数が5.5点へ上昇している。
		観光型旅館（ス タッフ）	来客数の動き	・3月25日の能登半島地震による影響は大きいものの、それまでは好調に推移していた。
		タクシー運転手	販売量の動き	・地元の原子力発電所の事故隠しや能登半島地震の影響で、報道関係者のタクシー利用が増加している。
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・例年より物件の売行きが良く、来場者数も多い。住宅ローン控除の残高上限の3,000万円から2,500万円への縮小など条件が厳しくなることも影響し、早く建築しようという客が増えている。
	変わらない	一般小売店〔鮮 魚〕（従業員）	お客様の様子	・能登半島地震により、この時期の目玉であった歓送迎会や花見などのパーティーが自粛されている。
		一般小売店〔事 務用品〕（営 業担当）	販売量の動き	・例年であれば、年度末で予算の消化や駆け込み需要が多くなり、多忙になる月であるが、今年は20日ごろにようやく若干の動きが出た。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・3月初めは好調であったが、その後、気温の低下やインフルエンザの発生などで購買のモチベーションが下がった。下旬に始まった大型催事は好調にスタートしたものの、25日の能登半島地震で買物客が減り、買い控えも増えた。婦人服全体では前年の96%で終わった。
		スーパー（総務 担当）	お客様の様子	・2月に好調だった衣料品は、3月の前半までは良かったが、中旬から後半にかけて気温が下がり、春物の購入が落ちた。景気の問題というよりは、気温の変化で売上が上下している。
		スーパー（営 業担当）	競争相手の様子	・競争相手はセールの日を増やし、ポイントも多く付けるなど、集客増加に努めている。
コンビニ（営 業者）		来客数の動き	・暖冬のため、前年に比べ来客数は約2%増加、客単価は約1%上昇した。	
コンビニ（営 業者）		販売量の動き	・3月初めは大変良かったが、中旬から気温の低下により売上、来客数とも大幅に減少し、後半は能登半島地震の影響で低迷した。月全体では、大口の受注があったものの、前年との比較では売上が4%減、来客数は2%減と、販売促進費を投入しての刺激策も効果は今一つだった。	
衣料品専門店 （営業者）		お客様の様子	・春物衣料が動く月であるが、季節感に乏しく、客の購買意欲が盛り上がってこない。	
家電量販店（店 員）		単価の動き	・シングル需要と決算セールにより、売上は前年より増加したが、月末近くなって客の購買は落ち着いている。	
乗用車販売店 （経理担当）		販売量の動き	・車両販売では受注が前年割れで苦戦している。また暖冬の影響で板金塗装部門が昨年12月以降、前年比5割減で推移している。	
自動車備品販売 店（従業員）		来客数の動き	・3月に入って天候不順となり、春商戦の出足が悪くなっている。タイヤの交換も様子見の状態、来客数も少なくなっている。	

		住関連専門店 (店長)	単価の動き	・客の価格に対する意識が厳しい。予算も少なく、値引きの要請も多い。したがって、客単価も上昇しない。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・例年どおり、月初めは客の入りが悪く、下旬の能登半島地震の後もぱっとしなかった。ただ、その間に団体客の来店が数回あったため、最終的には例年を若干上回る見込みである。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・例年であれば携帯電話の新規契約でにぎわい、販売台数も飛躍的に増加する時期だが、数年前からの急激な普及に伴い販売も低迷している。機種変更に関しても、翌月から優遇施策が開始されるため、買い控える客が後を絶たない。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・3月に入って寒さが少し戻り、利用客の動きはやや鈍ったものの、前年比ではまずまずの推移であった。内容的には団体、グループ客が前年比でやや減少したが、個人客が堅調であった。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・季節的要因と思われるが、塗装等のリフォーム関係の受注が増加している。
やや悪くなっている		百貨店(売場主任)	それ以外	・天候の不順とメーカーの効率的な作り込みにより、前年に比べ商品が減少傾向にある。加えて各社の独自性が不足している。また、販売員の安定した確保が困難になりつつある。
		百貨店(売場担当)	来客数の動き	・来客数、買上客数共に、当売場だけでなく、店舗全体でも前年を大きく割り込んでいる。
		スーパー(店長)	競争相手の様子	・競争各社とも、ポイント制やチラシ訴求などで工夫を凝らしており、集客のための企画競争が激しくなっている。
		家電量販店(経営者)	販売量の動き	・今まで好調に売れていたテレビ、洗濯機の売上が前年並みになってきた。全体の数字は前年割れである。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・売上台数は2月まで前年実績を維持してきたが、3月は前年比15%のダウンとなった。
		その他専門店[酒](経営者)	来客数の動き	・客は大型店に集中しており、老舗と言われる当店でも差別化を図っているものの、その成果がなかなか表れない。
		高級レストラン(スタッフ)	お客様の様子	・能登半島地震の影響により、予約のキャンセルが相次いでいる。送別会の開催もピークであったが、県議会、県庁、病院などの団体の宴席が急きょ取り止めとなっている。
		都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・レストランの利用客数が伸び悩んでいるほか、一般宴会の利用客も減少している。能登半島地震の影響でキャンセルが相次いでおり、しばらくは低迷が避けられない。
		タクシー運転手	単価の動き	・初旬から冬に逆戻りの寒さとなり、若干多忙になったが、夜の街の人出は週末のみで、平日は暇であった。ただ、25日の能登半島地震で電車が止まり、思いがけない長距離のタクシー利用があった。
悪くなっている		一般小売店[書籍](店長)	販売量の動き	・売上、来客数、販売量のすべてにおいて激減している。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・能登半島地震の影響から全体的に来客数の落ち込みが目立っており、イベントや顧客優待の催事を行っても、大きな集客効果が表れない。
		乗用車販売店(経営者)	単価の動き	・車の販売傾向はますます小型化、低価格化に向かっている。また、それ以外の車種では客の要望が強いことと販売店の在庫の圧縮策から値引き販売が常識化している。売上を確保しても、利益が伴っていない。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業(企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・高額商材の売行きが増加しており、平均販売単価が上昇している。
		輸送業(配車担当)	受注量や販売量の動き	・暖冬の影響か、例年に比べ荷動きが活発で、少しずつではあるが既存荷主からの売上が増えている。
	変わらない	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・暖冬の影響もあり、前年に比べ受注に勢いがなく、ムードが悪い。
	精密機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・当社では年初来、製品受注量は増えてきているものの、一部加工委託先の部品メーカー、中間加工業者などの総仕事量は減っているところが多い。眼鏡産地全体としてはやはり厳しい。	

	金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先によって、暖冬の影響が悪い方向に出ているケースが見られる。	
	司法書士	取引先の様子	・新会社設立の案件の増加はあるが、会社の解散も増加している。不動産登記については売買、設定とも案件数が少ない。	
やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年は年度末で多忙が当たり前の3月であるが、今年は手持ち工事が少なく、多忙だった3か月前の年末に比べ、休日出勤での対応はほとんど無かった。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月は受注量、売上高とも前年割れとなっている。	
	会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械部品メーカー向けの原材料卸商の受注状況に陰りが表れている。関係者は先行きに警戒感を抱いているが、普通車の国内販売が伸び悩んでいることも影響しているようだ。	
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新規の受注が見られない。	
雇用関連	悪くなっている	-	-	
	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数が若干増加している。正規型求人に変化は無いが、非正規型では増加が見られる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・最近、紹介予定派遣についての照会が一層多くなってきている。また、技術者需要は相変わらず盛であるが、応じ切れない状況が続いている。
		職業安定所（職員）	それ以外	・全体の有効求人倍率は1.5～1.6倍台で推移しているが、正社員では0.9倍台と、相変わらず厳しい。
		職業安定所（職員）	それ以外	・求人の活発な動きから、在職求職者が依然として増加しているが、雇用形態によるミスマッチは相変わらずである。また、今年度後半から無業者が増加しているが、不採用を繰り返す人も多い。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・例年、年度末近くには派遣や紹介の依頼数が増加するが、今年度末は低調である。
		学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・女子学生の就職内定者が前年同月に比べ約4%増加している。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-